

生徒指導だより「こころ」

平成28年4月28日(木)
NO.2 文責 堀 晴昭

何をするにも意味がある (物事の裏側が見えますか?)

Q1 なぜ、あいさつをしなければならないのか。

A1 挨拶の「挨拶」は「心を開く」、「挨拶」は「心に迫る」という意味のように、挨拶は「あなたを認め、心を開いているんだよ。」と伝えていることなのです。あいさつの時に頭を下げるのにも意味があります。人間の急所をさらけ出すことで、「あなたを信頼しています。」ということなのです。つまり、あいさつは信頼関係の証なのです。

また、握手するのは、武器を持っていないということであり、乾杯のときグラスとグラスを合わせるのは、毒が入っていないということを示す行為です。信頼関係であふれる学校にしたいものです。



Q2 なぜ、登下校にタスキをつけなくてはいけないのか。

A2 多くの方は、自分の命を守るためと答えるでしょうが、それだけではありません。車に対して自分の居場所を知らせ、加害者をつくらないようにする思いやりの気持ちでもあるのです。一旦事故が起きますと、被害者はもちろんのこと、加害者の人生もめっちゃくちゃになります。加害者と被害者の両方の家族や親族にまでその影響は及びます。つまり、タスキをつけることやヘルメットをかぶることは、思いやりの行動であり、みんなの幸せを保つことなのです。

中には明るい時に、なぜタスキをつける必要があるのか疑問に持つ生徒がいますが、いつでもつける習慣をつけておかないと、暗いときにつけ忘れることにつながっていきます。タスキをつけない人は、「私は自分のことしか考えない身勝手な人間です。」と言っているようなものです。恥ずかしいですね。



Q3 なぜ、自転車のカギをかけなければならないのか。

A3 自転車通学生で、カギをかけない生徒がいます。学校だから盗まれない、この学校にはそんなことをする人はいないと信じるのは大切なことですが、結局カギをかけない行為は、盗む人に罪をつくっているのです。家や車にたとえるともっと分かりやすいです。近所の人を信頼しているからといって、出かけるときカギをかけないで外出するのでしょうか？また、駐車場に車を止

め、カギをつけっぱなしで買い物をするのでしょうか？カギをかけるのは当たり前のことです。学校によっては「二重ロック」を推進しているところもあります。せめて一つぐらいはきちんとかけてもらいたいです。しかし、生徒によっては、カギをかけたのはよいのですが、「なくしました」「カギがありません」と言ってくる生徒もいます。このカギの管理もまた自立していく上で大切なことなのです。大人になりましょう。



Q4 なぜ、校門一礼なのか。

A4 登校時の校門一礼は、「自己を見つめ、日々新しく、謙虚であれ、誠実であれ、親切であれ、そして、今日の日の目標に向かい、努力することを誓っての一礼である。」言われています。下校時の校門一礼は、「やらされる一礼ではなく、自らに語りかける一礼、今日の学びと、努力できたことに感謝し、素直な気持ちで一礼である。」とされています。すべて「礼に始まり、礼に終わる」のです。礼儀正しい謙虚な人間になりましょう。

伝えたいこと・考えてもらいたいこと

上の4つの話から伝えたいことは、「物事(決まり・ルール)には理由(根拠)がある。」ということです。生徒はよく「なぜですか？」と理由を求めたり、「面倒くせ〜！」と愚痴をこぼしたりして、物事を素直に受け入れないことがあります。「それは子どもだから仕方がない。」と言ってしまえばその通りなのですが、中学生にもなったのですから、その裏側にあるものに気づいてほしいですし、考えてほしいと思っています。次の詩を読んで今の生活やこれからの生活を考えてみてください。

ピンチの裏側

神様は決してピンチだけをお与えにならない
ピンチの裏側に必ずピンチと同じ大きさのチャンスを用意してくださっている
愚痴をこぼしたりヤケを起こすと
チャンスを見つける目が曇り
ピンチを切り抜けるエネルギーさえ失せてしまう
ピンチはチャンス
どっしりかまえて
ピンチの裏側に用意されてる
チャンスを見つけよう

いろんな失敗をしてよいのです。次に生かすことができれば。多いのが、失敗を反省しきれず、もっと大きな失敗をしてしまうパターンです。ピンチをチャンスに変えるのはあなたの「こころ」です。